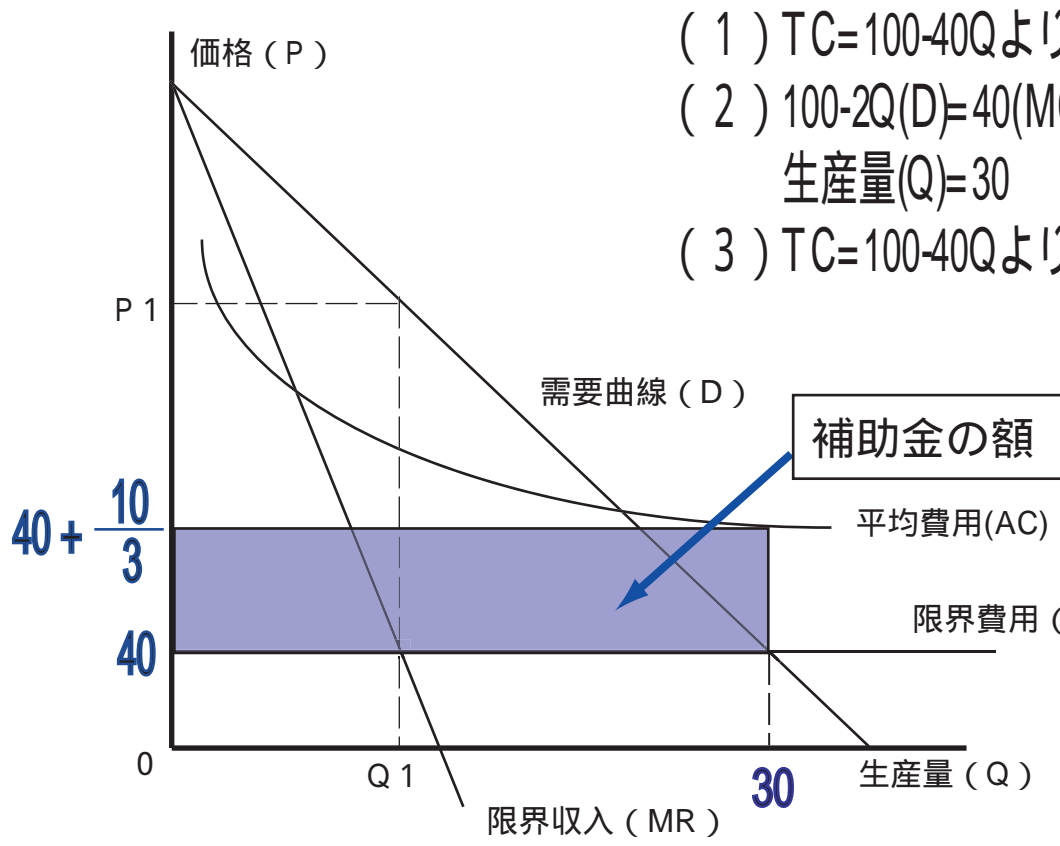


問題は費用逓減産業における限界費用価格形成によって、生産量を決定した場合の損失額を明らかにし、それに順応する補助金の額をきいている。

費用逓減産業は、ある程度の生産量に達するまで、固定費用が膨大なため利益がでない。例えば電力、ガス、運輸などに代表され、公益企業として独占の形態で生産を行う。

この価格水準では平均費用を下回っているために損失が発生しない。



- (1) $TC=100-40Q$ より、 $MC=40$
- (2) $100-2Q(D)=40(MC)$ より、
生産量(Q)=30
- (3) $TC=100-40Q$ より、 $AC=40 + \frac{100}{Q}$

- (4) Qに30を代入して、長方形の高さ $40 + \frac{10}{3}$
- (5) 長方形の面積 (損失額 = 補助金) が100になる。